

交通事故現場でサポートAAAがお役に立ったケース

CH15 小田悠紀之

【要約】

6月29日土曜日、午後7時半頃。家の前の道路で起きた交通事故に、サポートAAAを握って、現場に行きました。事故に遭ったご家族に、サポートAAAを手に握ってもらったところ、小さなお子さん二人が感情の解放ができたようで、それまで我を忘れて無表情でいたのが、泣いたり、体をふるわせることができました。感情の抑圧をしないで、トラウマにならずに済んだのではと思ひ、お役に立って良かったと思ったケースです。

【主訴(症状)】

3歳くらいの女兒

6歳くらいの女兒

30代くらいの女性

(お父さんは、電話で話していて、渡しそびれました)

突然の交通事故のショックと、お母さんは軽い怪我

【経緯】

道路側の窓際にいた主人が、「すごい音がした。交通事故だと思う」と言いました。同じく、道路側の2階の部屋にいた高校生の息子も、気がつき、降りてきました。私は、反対側の台所で換気扇を回して水を流していたので、音が聞こえませんでした。

ラフな格好をしていた主人と息子は、外へ出られるよう着替え、私は、とつさに、突然のショックや事故や怪我、死ぬかもしれない恐怖のレメディーである、サポートAAAを手にして、様子を見に行きました。

家と道路の間にある林をぬけると、道路の真ん中にファミリーカーが横転していました。その車を守るように、両方の車線に、通りかかった2台の車が止まっていました。

小さなお子さんを連れたご家族でした。飛び出してきた動物を避けようとしての自損事故。優しいご家族だなと思いました。

幸い怪我は軽そうで、現場を通りかかった車の女医さんが、手に怪我をしたお母さんに応急処置をしていました。ご近所さんも、交通整理などのサポートに集まっていました。運転手のお父さんは、電話をかけていました。私はホットしました。あとはレメディーをあげるだけ。

【レメディー選択】

観光地であり、休日の楽しいレジャーの帰りではないかと見受けられました。ちょうど、長い急な坂道を下って、このあたりにしては珍しい、平たんでまっすぐな、広い道路。ちょっと、気も緩み、スピードも出しやすい場所。そんな所で夕闇迫る時に、突然飛び出した小動物を避けての事故

に、心身ともにショック状態と見受けられました。

お子さん二人は、お母さんの怪我の処置を心配そうに見つめ、立っていました。怪我の処置が終わると、お母さんは「私は大丈夫。あなた達の方が心配よ」とお子さん二人を抱きしめていました。そのことから、互いに、自分の事よりも、相手のことを心配しあっていることがわかりました。

「ホメオパシーのレメディーで、突然のショックのレメディーです。口の中に入れるか、手に握っても良いです」と、説明してから渡しました。

口の中にガラスの破片が入っているので、レメディーを口にしたくないようでしたので、手のひらに一粒、握ってもらいました。

サポートAAA Acon. Arn. Ars. の3つのレメディーを合わせたもの。

Acon. (ヨウシュトリカブト) 死ぬかと思うほどの恐怖・急性のショック(心身の)・寒くて身震いする
Arn. (ウサギギク) 事故やケガの No.1 レメディー・出血やうっ血・打ち身、打撲症・私は大丈夫
Ars. (三酸化砒素) 不安・死に対する恐怖・心配・寒気によるひどい震え

【結果】

すると、お姉さんの方が泣き出しました。私は、良かった、泣けるようになって、と思いました。

お母さんは、「もう、大丈夫だから、泣かないで」と、背中をさすっていました。そこで、「お母さん。泣きたい時に、泣かせてあげたほうが良いですよ。そうしないと、いつまでも、恐怖が心に残ります」と、お話しました。

そして、泣いた女の子には「泣いていいよ。お父さんも、お母さんも、受け止めてくれるよ。私たちも見守っているからね」と、話しました。

次に、妹さんのほうが、突然体をブルブル震わせ始めました。女医さんが、「寒いんだね」と言ったので、お父さんが車から毛布を出して、お母さんとお子さんを包んであげました。

【考察】

女の子たちは、突然の事故に合い、ショックと恐怖を感じていたのですが、目の前で血を流して怪我をしているお母さんを心配して、自分の恐怖も表現できないまま、我を忘れている状態のようでした。なので、急性のショック・死ぬかと思うほどの恐怖・事故やケガ・出血、うっ血・打撲、私は大丈夫・心配、不安・寒気によるひどい震えなどのレメディーである、サポートAAAを一粒、掌に握った事で、自分の体と心に気付きを与え、ふと、我に返り、自分の恐怖を感じて泣くことが出来たのだと思います。また、恐怖とともに、高原の初夏の夜の寒さを感じて震えることが出来たのではないかと思います。まだ、幼くて、言葉で充分表現がしづらい事もあると思うので、泣いたり、震えたり、体で表現ができて、本当に良かったと思いました。恐怖が内向しないで、良かったと思いました。レメディーって凄いと思いました。怪我をしたお母さんには、もう一粒、握って

もらいました。

その後、警察が来て、私たちは立ち去りました。すっかり日が落ちて、主人と息子と林を抜けて家に戻ると、主人が「お母さんも、サポート AAA を取った方が良いね」と、私を気遣ってくれました。私は、普段、緊張してストレスを感じていても、あまり自覚していなくて、いろいろなことを乗り切るのですが、実はとても緊張していて、事が終わってから腹痛になったり、下血するので、確かにその通りと思い、自分も1粒、口に入れました。

大分、時間が経ってから、救急車の音がして、去っていきました。改めて、急を要するような大怪我ではなく、良かったなと思いました。優しい家族には、優しい人たちが集まって、手を差し伸べるのだなと思って、心が温かくなりました。